

研究の経緯と実践の概要

将来構想検討委員会

1. はじめに

本校は平成16年度から、「夢と活力あふれる高校づくり」推進費事業の「北海道学力向上フロンティアハイスクール」の奨励校に指定され、2年間研究・実践を行ってきた。

学校体制としては、平成15年度にたちあげた「将来構想検討委員会」の中に「学力向上FH担当チーム」を設置し、そこが中心となり様々な企画を立案し運営した。

これまでの本校の学力向上に関する取組について報告する。

2. 学校の概要

(1) 学校の特色

- ・ 昭和47年に開校し、平成13年に30周年を迎えた。
- ・ ほぼ全員が進学を希望し、年々その実績も向上・安定してきている。
- ・ 「進学+α」というコンセプトを掲げ、多方面から学校改革を進めている。

(2) 学級数・生徒数

普通科	第1学年	第2学年	第3学年	合計
学級数	8	8	9	25
生徒数	319	313	354	986

(3) 本校のこれまでの主な取組

- ・ 平成9年度から「二期制」を導入し、より柔軟な教育課程の編成やクラス編成を実施している。
- ・ 「進学講習」を、2年前期まで「英数2教科のセット講習」、2年後期からは「5教科の選択講習」として実施し、実力養成に努めてきた。
- ・ 「総合的な学習の時間」では、自己理解・自己表現に重点を置き、進路研究やスピーチコンテストなどを実施してきた。

(4) 進路実績

進路状況一覧表 平成9年度から平成17年度まで

	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
卒業生徒数	446	434	380	393	388	391	387	347	353
進学希望者数	429	419	370	388	379	380	377	346	345
進学者数	364	358	330	336	310	294	281	288	273
進学決定率(%)	84.8	85.4	89.2	86.6	81.8	77.4	74.5	83.2	79.1
就職希望者数	10	12	6	2	2	3	4	1	3
就職者数	10	12	6	1	2	3	4	1	3
就職決定率(%)	100	100	100	50	100	100	100	100	100

年度別合格者延べ数

	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
卒業学級数	11	11	10	10	10	10	10	9	9
国立大学	52	89	60	82	99	72	76	57	85
公立大学	4	1	8	12	12	9	18	18	11
国公立大計	56	90	68	94	111	81	94	75	96
私立大	347	320	363	381	318	343	340	368	328
4年制大学計	403	410	431	475	429	424	434	443	424
短期大学	186	157	172	84	66	56	51	27	32
各種学校	68	86	65	91	82	51	60	78	66

3. 研究の概要

【本事業の趣旨】

北海道の新しい時代を拓く人材の育成を目指し、自ら学ぶ意欲を培う高等学校教育の実現に向け、主体的に魅力ある学校づくりに取り組む道立高等学校を奨励校として支援するとともに、各奨励校の取組の成果を広く道内の高等学校に普及させることにより、北海道の高等学校教育の改善・充実を図る。

【実践テーマ：北海道学力向上フロンティアハイスクール】

テーマの趣旨

適切な評価規準の設定や効果的なシラバスの作成をはじめ、基礎・基本の確実な定着や発展的な学習の充実のための指導方法及び評価方法の工夫・改善など、学習意欲や学力の向上のための実践的な研究を行う。

【奨励校として申請したねらい】

- 1 これからの北陵高校を目指す学校像である「進学校+ α 」の取組の推進
- 2 地域や中学生に対する学校のイメージアップ
- 3 学校改革・教員の意識改革

【研究内容】

- ・生徒ひとりひとりの能力を最大限に伸ばし、調和のとれた人格形成を育むなかで、将来は北海道を担うリーダーとなりうる人材の育成をめざす。
- ・本校の目指す学校像である「進学校+ α 」の具体的方策として「知のネットワーク化」による「確かな学力」の向上をめざす。

4. 研究の取組

○1年目（平成16年度） 基本的に平成16年度入学生を研究対象学年とする。

- 1 学習状況調査および分析
 - (1) 高校入学時からの学力向上についての調査研究（追跡調査）
 - (2) 学習実態の把握と学習意欲向上についての調査研究
- 2 教育課程の評価
 - (1) 平成16年度入学生教育課程の評価
 - (2) 平成17年度教育課程の編成

- 3 授業改善とシラバスの作成
 - (1) 授業改善の取組（授業アンケートや授業公開等）
 - (2) 評価規準・評価方法の調査研究とシラバスの作成
- 4 地域との連携
 - (1) 外部人材の活用による研修会（座談会等の実施）
 - (2) 高大、中高連携の取組

○2年目（平成17年度） 基本的に平成16・17年度入学生を研究対象学年とする。

- 1 学習状況調査および分析
 - (1) 高校入学時からの学力向上についての調査研究（追跡調査、2ヶ年の比較）
 - (2) 学習実態の把握と学習意欲向上についての調査研究
- 2 教育課程の評価
 - (1) 平成16・17年度入学生教育課程の評価
 - (2) 平成18年度教育課程の編成（多様化した生徒のニーズへの対応）
- 3 授業改善とシラバスの活用
 - (1) 授業アンケート結果の活用
 - (2) 授業公開等による教科研修の充実
 - (3) 評価規準・評価方法の調査研究のまとめ
 - (4) シラバスの活用と工夫
- 4 地域との連携
 - (1) 外部人材の活用による研修会
 - (2) 高大、中高連携の一層の充実

【本事業に関する校内体制】

- 1 本事業の取りまとめは将来構想検討委員会（FHチーム）で行う。
- 2 本事業の具体的な業務は関係分掌・学年・全教科の協力のもと推進する。
なお、詳細は具体的な実施計画及び担当を参照のこと。

【具体的な実施計画及び担当】 平成17年度分

実践項目	業務内容	対象学年	実施時期	担当者
学習状況調査 及び分析	・学習実態調査 (調査の実施と集計・分析) ・入学時からの学力追跡調査 (特に学力の推移について)	1学年 2学年	4月 1月	教務部 (1・2学年)
学力検査	・問題作成協力等		5月	
教育課程の評価	・平成16・17年度入学生教育 課程の評価 ・平成18年度教育課程の編成 (全学年)		7月まで	教育課程委員会 将来構想委員会

授業改善と シラバスの活用	・授業公開 ・授業アンケートの実施 ・評価規準・方法の調査研究 ・シラバスの活用	1 学年	10月 ～11月	教務部 全教科
地域との連携	・外部講師による研修会 ・中高連携（学校間交流） （学校訪問） ・高大連携（出張講義・高大 連携プロジェクト授業）	2 学年	10月 7月と 10月 10月	将来構想委員会 （ ） 入試検討委員会 総務部 進路指導部
先進校視察	福岡県・長崎県など		6月中	教頭
報告書作成	・道教委提出用 ・本校独自のもの		2・3月	FHチーム
予算の執行	・本事業に関わる予算執行 および会計処理			

5. 本事業による成果

○ 研修（全体・教科）の充実

シラバス作成・評価に関する研修など、教科・全体での研修がより活発になり、充実した。

○ 各種評価に関する体制の充実

学校評価・授業評価の体系化が進み、PDCAサイクル構築の礎ができた。

○ 中高連携の前進

「中学生・中学校教員との懇話会」の開催により、有機的連携の第一歩が踏み出せた。

○ 学校全体での「授業重視」への意識づくり

「授業で勝負」のスローガンのもと、授業改善の意識が高まった。

○ 教育課程の見直し

平成19年度入学生の教育課程の大きな見直しが決定した。

6. 今後の研究課題

○ 生徒の学力の正確な把握 → 本校独自の学力分析と学力等実態調査の効果的な活用

○ 授業改善と評価規準の研修 → シラバスの活用と授業計画の再検討、評価規準の再検討

○ 教育課程の検討 → 現教育課程の検証に基づく、平成19年度入学生教育課程の編成

○ 「進学校+α」具現化への一層の推進 → 導入期指導と総合的な学習の時間の検討

○ 本校の教育活動に対するニーズの把握 → 生徒・保護者・評議員による学校評価結果から改善への検討、中学校訪問による意見集約